

「お薬手帳」を活用しましょう

医療安全全国共同行動
行動目標8「患者・市民の医療参加」
支援チーム 高橋知子

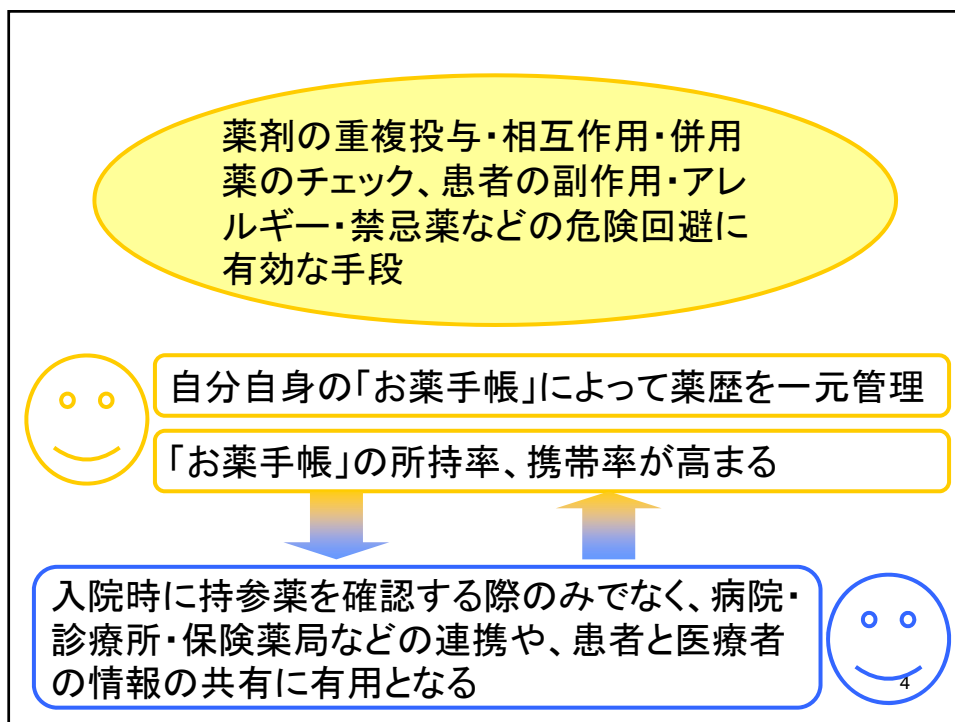
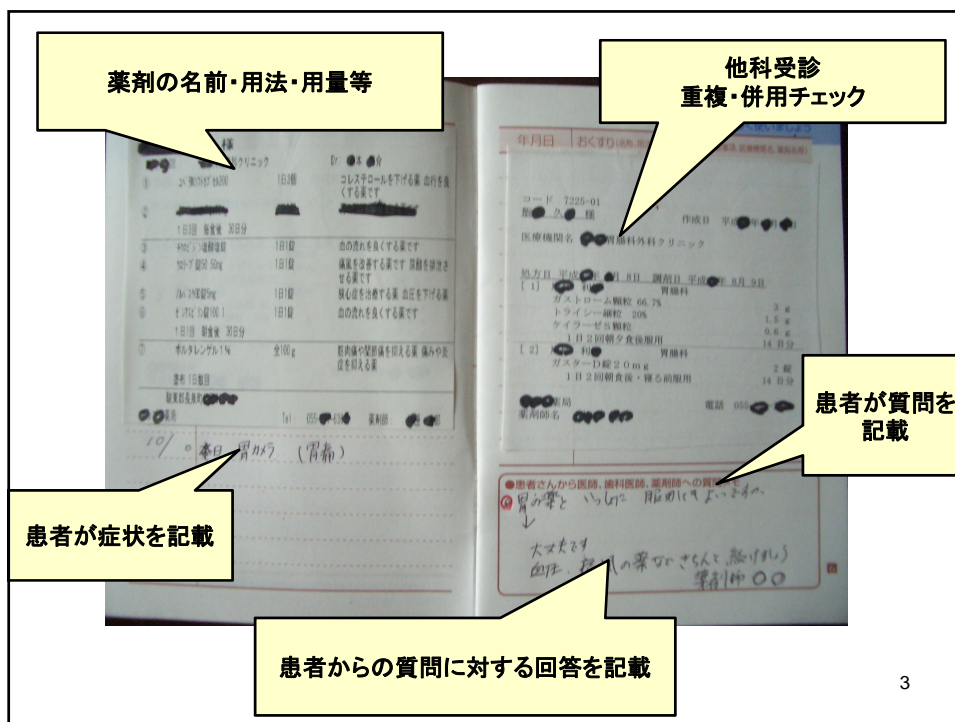
1

『人は誰でも間違える』(IOM2000)

★薬剤事故防止(最優先課題)の戦略

- ・処方箋の記述と処方ルールを標準化
- ・リスクの高い薬剤の使用について特別な手続きと文書化されたプロトコールを用意する etc.
- ・患者に知識を持たせる

「(薬剤事故の防止のために)多くの医療現場でほとんど活用されないままになっている重要な資源は患者である」



患者が「お薬手帳」を常に携帯することによって・・・



病気が悪
化して救
急搬送さ
れた場合

外出時に
急に具合
が悪くなっ
た場合

不慮の事
故に遭遇
した場合



大地震など
の災害時



手帳の記載から薬歴がわかり、医療機関による救
急救命処置が円滑に行いやすくなる

持参薬と「お薬手帳」の調査

調査対象と調査方法
調査結果の概要
アンケート結果
持参薬の結果

2010年5月15日
静岡県立静岡がんセンター
RM・QC室 非常勤薬剤師
飯島久子

6

調査対象と調査方法

• A病院

静岡県
整形外科・リハビリテーション科・内科・循環器科等

病床数:約60床
看護基準:15対1
平均在院日数:35.2日

• 調査方法

入院する全患者のうち同意を得られた患者を対象とする。

- ①年齢、性別、病名、既往歴などの基本情報の確認。
- ②A病院の薬剤師が確認した持参薬の確認表の転記。
- ③「お薬手帳」を持参した患者の記載内容確認。
- ④服用薬について患者にインタビュー。
- ⑤「お薬手帳の活用状況について」アンケート。

(慶應義塾大学健康マネジメント研究科倫理審査委員会承認) 7

調査結果の概要

調査期間:平成21年7月から9月
入院患者数:122人 1.9人/日
同意を得られた患者数:101人

同意を得た
n=101

手帳を知っている
n=97
(アンケートを実施)

手帳を知らない
n=4

手帳を持っている
n=83

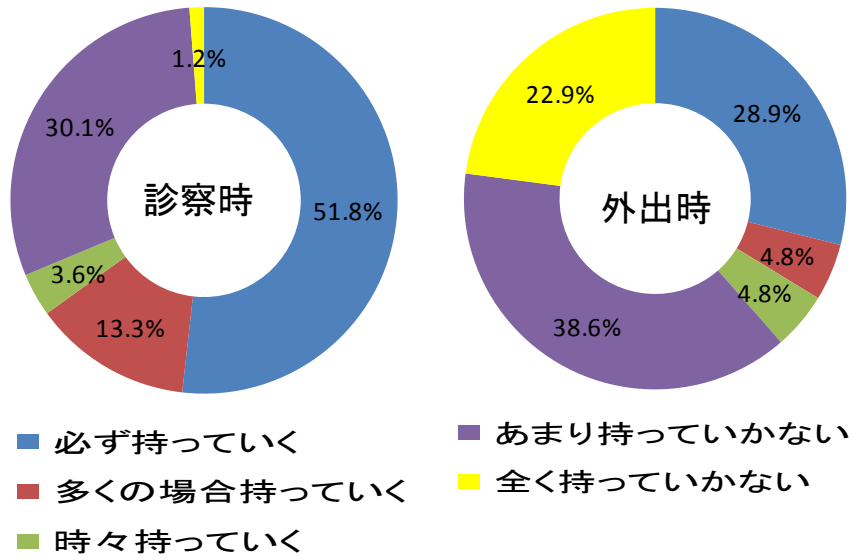
手帳を持っていない
n=14

入院時携帯
n=43

(手帳の内容を確認)

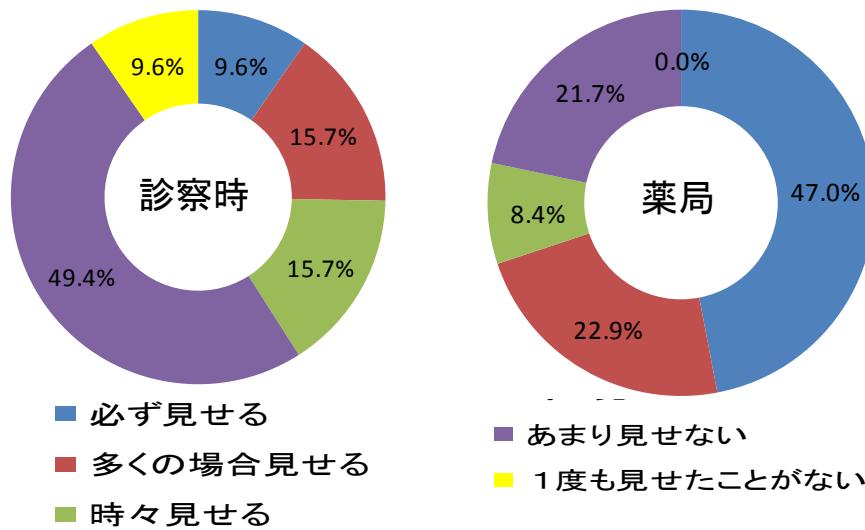
入院時携帯せず
n=40

「お薬手帳」に関する患者の行動のアンケート結果 (n=83)
“持っていく”



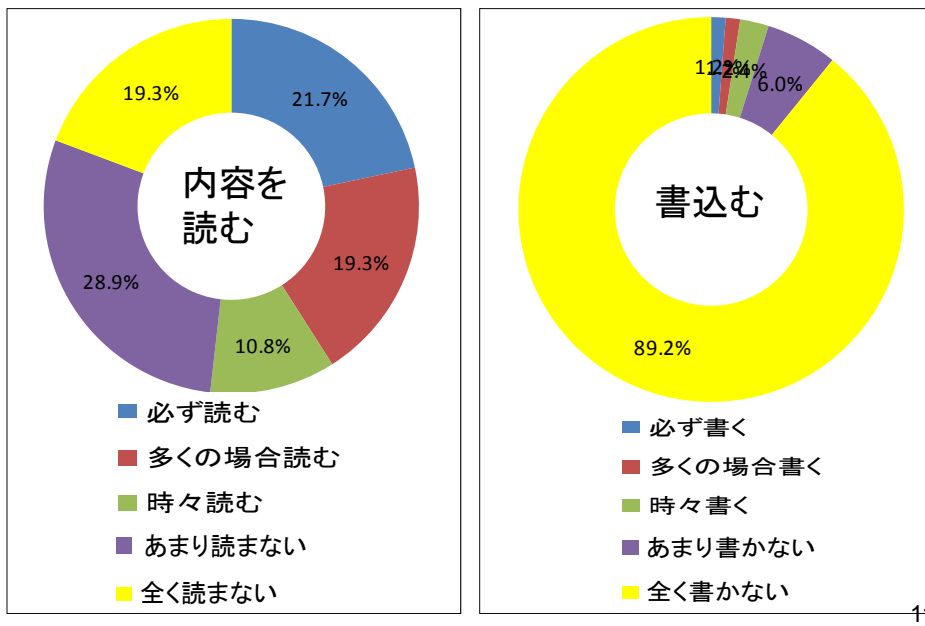
9

「お薬手帳」に関する患者の行動のアンケート結果 (n=83)
“見せる”

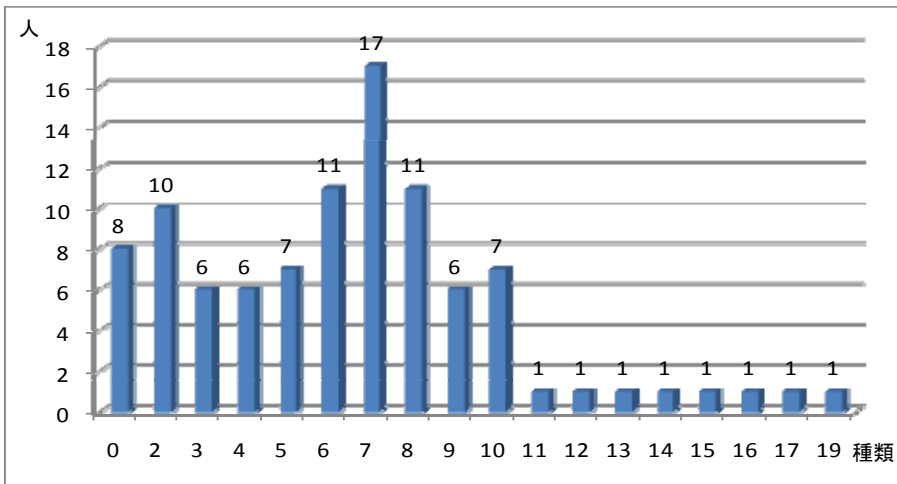


10

「お薬手帳」に関する患者の行動のアンケート結果 (n=83)

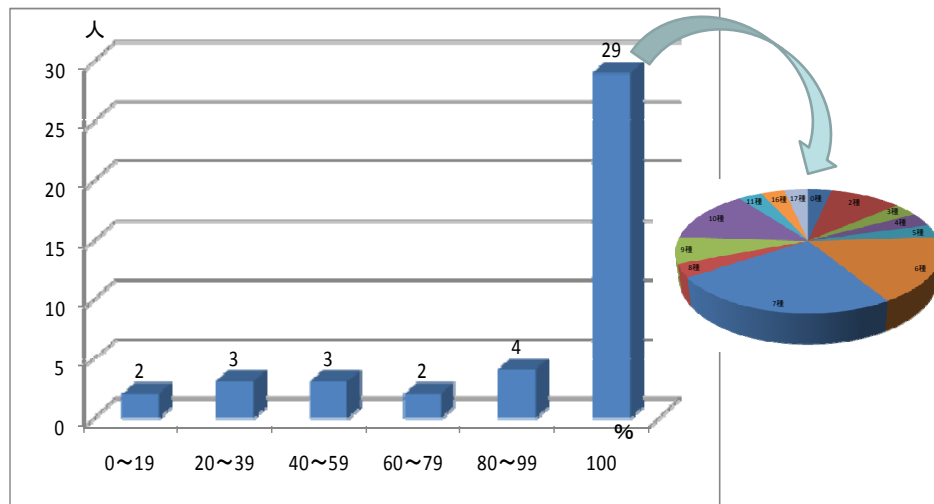


入院時持参薬数 (n=97)



平均 6.3±3.8種類

持参薬と手帳に記載されていた薬剤の一致度 (n=43)
一致: 薬剤名及び数



手帳に記載されていた薬剤名の数 / 持参薬名の数
平均 84.3 ± 28.6%

13

服用薬剤名の記憶

- 服用している薬剤名を1種類でも正確に記憶し、言うことができた。6人 / 101人 (5.9%)
- 服用している薬剤名をすべて言うことができた。2人 / 101人 (2.0%)

14

「お薬手帳」がその機能を発揮するために 患者ができること



- 医療機関を受診する時には持参し、医師・看護師・薬剤師に見せる。
- 複数の医療機関を受診している場合でも1冊の「お薬手帳」で管理する。
- 自分の症状や気になることを「お薬手帳」に記載する。
- できれば、市販の薬やサプリメントを服用する時にも記載する。

15

「お薬手帳」がその機能を発揮するために 病院ができること



- 患者に受診時には「お薬手帳」を持参し、医療者に見せるよう勧める。
- 処方された薬の内容・用法・用量等の情報を記載する。
- 患者の情報(副作用・アレルギー・禁忌など)を記載する。
- 外来・入院・退院時で「お薬手帳」の流れが途絶えないようにする。

16